

令和元年度病虫害発生予察情報 予報第2号（5月）

令和元年5月30日
発表：福島県病虫害防除所

1 普通作物

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲	いもち病 (葉いもち)	全 域	—	やや少ない	天候予報(5月23日発表1か月予報)によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている(—)。	①補植用置苗は本病の伝染源となるため、速やかに処分する。 ②窒素肥料の多用を避ける。
	イネドロオ イムシ	全 域	平年並	やや少ない	①有効積算温度による越冬成虫の水田侵入盛期は、平年並と予想される。 ②天候予報によると、向こう1か月の降水量は少ないと予想されている(—)。	①発生が目立つ場合は薬剤防除を行う(要防除水準:加害盛期に3~4齢幼虫が10頭/株以上寄生)。 ②発生時期が早く移植が遅れた場合は、被害が大きくなる傾向があるので注意する。
	イネヒメハ モグリバエ	全 域	—	やや少ない	天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている(—)。	深水管理や直播栽培では被害が発生しやすいので注意する。
	イネミズゾ ウムシ	全 域	平年並	やや少ない	①有効積算温度による越冬成虫の水田侵入盛期は、平年並と予想される。 ②近年、本田内での発生ほ場割合が低く推移している(—)。	成虫の寄生が、100株当たり40頭以上確認される場合や、水田内のほぼ全葉に食害が確認される場合は茎葉散布剤を散布する。
麦 類	赤かび病	中通り 会 津 浜通り	やや早い やや早い	やや少ない 平年並	①出穂期は平年よりやや早い。 ②1か月予報によると、降水量は平年より少ないと予想されている(—)。 ③前年の発生量は浜通りでやや多かった(+)	発病した場合は刈り分けを行うなど、被害粒の混入を防ぐ。また、収穫後はすみやかに乾燥・調製を行う。
	うどんこ病	全 域	—	やや少ない	①5月中旬の調査では、例年同様各地方とも発生は確認されなかった(±)。 ②天候予報によると、向こう1か月の降水量は少ないと予想されている(—)。	薬剤防除にあたっては収穫前日数に注意する。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、(—) は少発要因、(±) は平年並要因であることを示す。

2 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	斑点落葉病	全域	—	平年並	中通り、会津ともに調査ほ場での発生は確認されなかった(±)。	
	腐らん病	全域	—	平年並	中通り、会津とも発生ほ場割合は平年並であった(±)。	病患部は、見つけしだいせん除するなどの耕種的対策を実施する。
	キンモンホソガ	全域	—	平年並	中通り、会津とも平年同様調査ほ場での発生は確認されなかった(±)。	
モモ	灰星病	中通り	—	平年並	調査ほ場での花腐れの発生は平年同様確認されなかった(±)。	本病による枝枯れは見つけしだいせん除し、適切に処分する。
	せん孔細菌病	中通り	—	多い	①春型枝病斑の発生ほ場割合は福島地域、伊達地域ともに平年より高かった(+) ②新梢葉での発生ほ場割合は、福島地域、伊達地域ともに平年より高かった(+)	今後梅雨期を迎え、被害が拡大するおそれがあるため、春型枝病斑、被害葉・果実は徹底して除去するとともに、例年果実被害が多いほ場では仕上げ摘果後速やかに袋かけを実施する。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がける(防除情報参照)。
	モモハモグリガ(第1世代成虫)	中通り	—	やや多い	被害ほ場割合は、福島地域で平年より高く(+)、伊達地域では平年並であった(±)。	6月2半旬頃に防除を行い、次世代の密度低下を図る。例年発生が見られない園地でも遅れずに防除を行う。
ナシ	黒星病	中通り 浜通り	— —	平年並 少ない	果そう基部での発生ほ場割合は、中通りで平年並(±)、浜通りでは平年より低かった(-)。	今後梅雨期を迎え、被害が拡大するおそれがあるため、果そう基部病斑や被害葉・果実は、徹底して除去し、適切に処分する。
果樹共通 (中通り :リンゴ、 モモ、ナシ 会津:リンゴ 浜通り: ナシ)	アブラムシ類	中通り 会津 浜通り	— — —	やや多い 平年並 平年並	中通り(リンゴ、ナシ)での寄生ほ場割合は平年より高く(+)、浜通り、会津での寄生ほ場割合は平年並であった(±)。	
	カメムシ類	全域	—	平年並	①調査ほ場への飛来や果実被害(モモ)は平年同様確認されなかった(±) ②指標植物(サクラ)への飛来数は平年並であった(±)。	越冬世代成虫による加害は幼果期から始まるため、特に山沿いの園地ではよく観察し、飛来を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。

ハダニ類	全 域	—	平年並	中通りおよび浜通り、会津での寄生ほ場割合は平年並であった(±)。	
------	-----	---	-----	----------------------------------	--

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

3 野菜・花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト(被覆栽培)	灰色かび病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	アブラムシ類	全 域	—	やや少ない	発生ほ場割合は平年よりやや低かった(-)。	①ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 ②施設開口部をネット被覆していない場合、有翅虫の飛込について注意すること。
	コナジラミ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
キク(露地栽培)	白さび病	全 域	—	平年並	育苗床からの持ち込みによると考えられる発生が見られたが、発生程度は平年並であった(±)。	①多湿条件が続くと発病しやすくなるので、予防散布に努める。 ②品種により発病に差があるので、発病しやすい品種では防除を徹底する。
	アブラムシ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	ハダニ類	全 域	—	やや多い	①発生ほ場割合は、平年並であった(±)。 ②天候予報(5月23日発表1か月予報)によると気温が高くなり、晴れの日が多いと予想されている(+)	①低密度時から防除を実施する。 ②抵抗性の発達が懸念されるため、防除薬剤の選択に注意する。
	アザミウマ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を徹底する。
	ハモグリバエ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	上位葉での発生に注意し、低密度時から防除を実施する。

リンドウ ※過去4 年間の平 均値と比 較	葉枯病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	多湿条件で発生が多くなるので、予防散布に努める。
	ハダニ類	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。 ②天候予報(5月23日発表1か月予報)によると気温が高くなり、晴れの日が多いと予想されている(+)	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。
	リンドウホソハマキ	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	高温の影響により被害拡大が例年より早まる可能性がある。ほ場をよく観察し、発生が多い場合は速やかに防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(—)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病虫害

夏秋トマト(被覆栽培)	<p>■トマトかいよう病</p> <p>苗での発生を確認しています。本病は細菌病であり、種子や土壌中の病原菌が第一次伝染源となり、その後、芽かきや収穫、誘引などの管理作業による二次伝染により被害拡大します。作業手袋やハサミ等をこまめに消毒し、被害拡大を防ぐようにしてください。万が一ほ場で発生した場合は、速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分してください。</p> <p>■タバココナジラミと黄化葉巻病</p> <p>2006年にタバココナジラミ・パイオタイプQの本県への侵入がトマトで確認されました。現在までに、中通り、会津南部、浜通りで本種の発生を確認しています。また、本種が媒介するトマト黄化葉巻病ウイルス(TYLCV)も中通り北部、会津南部、浜通り南部で確認されています。タバココナジラミ及び黄化葉巻病の発生地域では、タバココナジラミの侵入・脱出防止を心がけ、ほ場内での発生密度が高くないように適切な防除を行ってください。また、未発生地域においても、購入苗等により持ち込むおそれがありますので注意が必要です。</p>
野菜・花き共通	<p>■ネキリムシ類</p> <p>他県においてフェロモントラップによるネキリムシ類(カブラヤガ)の成虫誘殺数が多いと発表されています。また、天候予報(5月23日発表1か月予報)によると向こう1か月は気温が高くなり、晴れの日が多いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件です。農作物の被害が大きくなってから発生に気づくことが多いので、ほ場内をよく観察し、早期発見、被害初期の防除を行いましょう。</p>

より詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病虫害防除所ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/> をご覧ください。

お問い合わせは TEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727 または e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp へお願いします。

◆福島県では6月10日から9月10日まで2019年度農薬危害防止運動を実施しています◆
農薬を使用する際は、ラベルをよく読んで正しく使用しましょう。